

山岳ぐんま

平成二十八年度祝日「山の日」記念事業 第32回群馬県民の日記念事業 第39回群馬県民登山大会開催される

期日 平成28年10月30日
会場 赤城山鈴ヶ岳・地蔵岳

《Aコース(鈴ヶ岳)》

CL 対比地昇

開会式後、A、Bコース毎に分かれて集合し、役員の紹介、行動予定、諸注意等の話や準備体操を慌ただしく済ませ、冷えた身体を温めるべく8:00 早めの出発となりました。Aコースの申込者数六十三名をジュニア十一名で一班、それ以外を二班に分け、班毎の行動となりました。予報通りとはいかず、時折日が差す程度の天気でしたが、高度を上げるにつれて身体も温まり、開けた鍬柄山に到着したときは、紅葉や周りの景色も楽しむことができ、言葉も弾んで和やかな雰囲気秋の登山を楽しんでいる様子が見られました。約十五



分の休憩の後、鍬柄山直下の急な坂を慎重に下り、三十分足らずで9:30 広い大ダオに到着しました。ここから鈴ヶ岳の往復と昼食の時間も含めて再集合の時間を設定し、それぞれ行動してもらいました。狭い尾根、ロープの設置されている岩場を慎重に登り、鈴ヶ岳山頂に到着です。奥の院まで足を伸ばし、たくさん石を前にして、行動役員の斎藤さんから石碑について解説してもらいました。

た。木が多く眺めの見られる方向は限られていましたが、燧ヶ岳や榛名山等の周りの景色も楽しむことができました。慎重に大ダオまで下り、全員集まったところで、再び斎藤さんから鍋割山の石碑や石垣跡についての興味深い話を聞いていただきました。11:30 大ダオを出発。北面であまり日が当たらないところなので暗いイメージがありましたが、周りの紅葉は想像以上の美しさでした。踏み跡がはつきりしないところもあり、読図の大切さを確認しながらの行動となりました。12:10 分岐(関東ふれあいの道)に到着。小休止の後、出張峠を目指して出発。緩く長い登りの最後に急登で息を切

らせ、13:15 出張峠着。時間の関係で出張山をカットし、峠からそのまま下り湖畔の青木旅館に13:45着。見晴山経由で新坂平駐車場に14:30に到着し、簡単に閉会式を行い解散となりました。Bコースに比べると行動時間が長くなり、途中で車に乗って移動した人もいましたが、秋の登山を楽しんで満足している表情もたくさん見られました。

《Bコース(地蔵岳・長七郎山)》

CL 高橋守男

A・Bコース合同の開会式を終え、Aコースへ当日移ったメンバーの確認後、8:00に新坂平登山口から二十八名の参加者と八名のスタッフでスタートした。気温は低いが、歩き始めると心地良い程で、途中一回休憩で電波塔の林立する地蔵岳山頂に到着した。山頂から南に張り出した所からは小沼方面の眺望が良く、赤城火山の概要が説明された。

小沼への下り斜面では、気候が温暖化したり木々がかなり大きくなったりで現在は滑る人がいないが、若い頃この斜面でスキーをした思い出に花が咲いていた。

小沼駐車場トイレ脇で町田遭難

対策委員長から「登山事故の現状とその回避」のテーマで、具体例を元に事故はいつでも誰にでも起こりうる話が話された。その後小沼を左回りで長七郎山に向かった。長七郎山頂で昼食を楽しんだ後、三田自然保護委員長から足裏の面積の土壌にも想像を絶する数の生物がいて、そのバランスの中で自然が保たれていることなどが話された。

次の鳥居峠では、覚満淵を眺めながら「植物遷移」についてSL角田副会長が解説した。木道歩き後ビクターセンターで休憩し、一部自動車道路を使いながら見晴山駐車場経由で13・30に新坂平駐車場に戻り、Bコースの解散式を行った。その後スタッフの反省会を行った。コース後半で足がつったため緊急車両を使った参加者が一名いたが、その手配のときに無線が繋がらない時があり、無線中継が必要だったとの指摘等があった。それ以外は特に問題なく、二つの山頂からの眺望もそこそこ楽しめ、秋が深まり行く地元の山の代表的なコースを楽しんでもらえたと思う。また、トイレが途中二ヶ所あり女性にとってはありがたいコースであった。

*ふるさとの山に登ろう

消防自主グループ 山岳レスキュー訓練

遭難対策委員会

委員長 町田 幸男

平成二十八年十一月六日(日)

太田の金山にて恒例となった消防職員による自主訓練が実施された。

遭難対策委員会からは阿久津(太田)、角田、神垣、上原(以上前橋)の4名がアシスタントとして参加してくれた。

このイベントも今年で三回目となり、今回は高崎、伊勢崎、藤岡、

足利、千葉の松戸から計7名の消防職員が参加した。毎年20〜30名程度の参加者があるのだが、今年

は山岳資機材にある程度精通する消防士に限定したため少人数での訓練となり、その分内容の濃い訓練が実施できたようである。

朝礼の後、装備確認を行い山岳遭難の現状について簡単な講義を

行った。消防士の方々は山での地図の活用慣れしていないため、通報があつた場合の遭難現場の特定に苦慮しているようである。近年、登山者はスマホアプリやGPSを携帯している場合が多く、座標による位置連絡が可能であることや、ヒトココなる位置特定装置が普及しつつあることを講義した。ヒトココに関しては山中での実技を実施、ヘリによる捜索事例など講義した結果、その有効性について大変興味をひかれていたようであった。



かけ下からの遭難者引き上げ訓練



スケットストレッチャーでの遭難者搬送訓練

行った。消防士の方々は山での地図の活用慣れしていないため、通報があつた場合の遭難現場の特定に苦慮しているようである。近年、登山者はスマホアプリやGPSを携帯している場合が多く、座標による位置連絡が可能であることや、ヒトココなる位置特定装置が普及しつつあることを講義した。ヒトココに関しては山中での実技を実施、ヘリによる捜索事例など講義した結果、その有効性について大変興味をひかれていたようであった。

30分ほど登った山の中で、現場を想定した訓練を行った。今回集まった職員が管轄する地域で想定される山岳遭難は、ほとんどが軽症で動けなくなった場合であるため、岳連で想定しているような岩壁での救助はテーマから除外した。とは言え、急斜面を滑落した事例は多々あるためロープを使った要救助者の上げ下げの基本操作をはじめ搬送についての講習を主に行った。ハーネス装着の仕方から始まり、特殊な山岳資機材の使用方、立木からの支点の取り方などに支点については、救助現場において発生する想定以上の荷重とそれに対応するための安全率についても言及した。

滑落を想定した訓練では、急斜面への検索の行い方から隊員の効率よい現場への配置の仕方、現場からの撤退方法について講習した。続いて、レスキューハーネスの使用法と1/4システムを使用したの引き上げを実施した。搬送法についてはザックを利用した背負い搬送、スケットストレッチャーによる梱包とクリップコンティニューアスピレーターによる山道での搬送について講習した。評判であつたの

がツェルトの使用方法である。簡易テントとしての設置の仕方や、現場で待機する場合、ただかぶるだけでも非常に有効であることを学習いただいた。当日は風が強かったので、特別な環境下での応急手当にも十分活用できると納得いただいた。

まとめとして、簡単なシミュレーションを行った。角田副委員長に遭難者となっていていただき、急斜面の下でスタンバイしていただいた。ヒトココを使用しての捜索から支点の設置、現場への侵入降下、要救の引き上げ、梱包搬送まで、個々に学習した技術を一連の流れとして学習いただいた。実際に駐車場まで搬送を行い、装備点検終了後に訓練終了となった。

毎回感じる事だが、消防の方々には動きが良いので感心させられる。こういった機会に岳連の隊員もできるだけ参加いただき、実際の現場で活躍するプロの姿を是非ともご覧いただき参考としていただきたい。救助に関する3要素「安全、迅速、確実性」3つのSを常にバランス良く正三角形に保てるよう、そして三角形がより大きくなるよう更なる努力を願います。

救助隊訓練レポート

群馬岳連救助隊員 石橋 修
(群馬独峰会)



岸壁での救助基礎訓練

平成二十八年十一月十二日(土)、十三日(日)の両日、妙義ロックガーデンにて群馬県山岳連盟救助隊の訓練が開催された。

一日中陽のあたらない日陰の岩場は少し肌寒くはあったが、最近、妙義山塊にも出没する「山ビル」を避けるためには致し方ないところでもある。

訓練一日目は、朝の挨拶後、分担して装備を背負って岩場まで登るところから始まった。フィック

者を確保してさらに安全地帯まで降りることを繰り返す。この段になると各隊員にも俄然レスキューをしているという意識が高まってくる。チームで動く際には声かけまたはアイコンタクトでしっかりとコミュニケーションをとる



レスキューハーネスでの要救助者引き上げ

ことの重要性が指摘されているが、慣れてきたこともあり隊員間でも意思疎通がスムーズになっているようだ。

続いてディスタンスコントロールによるチームレスキューや4分の1引き上げシステム(動滑車から4本出れば4分の1システム)による要救助者の引き上げを行い、最後に要救助者を岩場から駐車場まで搬送して一日目は終了となった。

訓練が終わると、救助隊では恒例となっている宴会が開かれた。ブルーシートで屋根をつくり、すでに定番となったキムチ豆腐やおでんが振る舞われる。私自身はすぐに眠くなってしまい早めに就寝したが、さすが「山屋」、遅くま

で談義に花が咲いていたようである。訓練だけではなく、こうしたことも含めて絆を深めていくことも重要なだろう。

二日目は、2組に分かれてワイヤーを使つてのチームレスキューからスタート。それぞれが救助者と要救助者、ワイヤーの操作を経験するため、これを5〜6回繰り返す。仕上げとして100mの岩場の頂上からのワイヤー救助をすべくフィックス作業までは行つたが、稜線の立木が枯れており良い支点が得られなかったためにこれは断念することとなった。最後にもう一度要救助者を搬送し、両日とも日が暮れるまでの残業となつて訓練は終了した。

細々としたことも書いてきたが、最後に救助隊がどのようなことを意識しながら訓練をしているのかを記しておきたい。町田隊長がよく使う言葉「3つのS」についてである。3つのSとは、「セーフティー(安全)、シュアリー(確実)、スイフトリー(迅速)」という救助をする際に必要となる3つの要素である。これを一つ一つ確立していけばそのシステムはより「シンプル」なものとなる。

しかし、救助隊が目指しているのは単なる「シンプル」な技術の習得ではない。見た目が「シンプル」であったとしても、そこに「安全性・確実性」がなければ単なる「雑な技術」にしか過ぎず、あくまでも「安全、確実、迅速」を追求した結果が「シンプルな技術」に繋がる。そのために救助隊ではシステムを理解するために実践し、疑問に思ったことは質問することが奨励される。「なぜそうやるのか」を理解してこそそれは本物の技術となるのである。

隊員各位には、訓練だけで終わりではなく、日々の技術としてこれらを各山岳会に持ち帰っていただきたい。そして各会の会員は、自分の技術を高めるために救助隊員を捕まえて質問し、実践していただきたい。こうすることで確実に技術が広まることであろう。もし興味があれば、どんな訓練が繰り広げられているのか、見学してみたいかがであろうか。見るだけでも刺激になることと思う。そしてつとつと技術を高めるために、是非隊員に志願してほしいかがであろうか。

*8月11日は「山の日」です

ファーストエイド研修会

群馬岳連遭難対策委員会
委員長 町田幸男

救助隊員の技術向上を目的としたファーストエイド（FA）研修会を、十一月二十二日、前橋福祉会館にて実施した。救助隊員および遭対委員で合計十六名が参加、医療顧問である斉藤ドクターにご指導いただいた。また、十二月六日には研修成果を発揮させるため個人委員会でのFA講習会に六名がアシスタントとして参加した。簡単ではあるが以下に研修内容を報告する。

今回は山中での虫や動物による外傷に関する対処について学習した。テーマは蜂による虫刺され、アナフィラキシーショックや、毒蛇にかまれた場合の処置、そしてクマなどによる重篤な外傷を想定した講義とシミュレーションを行った。

昆虫による外傷は毛虫や蛭によるものもあるが、最も注意が必要なのは蜂による障害である。ただ刺されただけでは、痛みがあるだけでそれほど危険はない。厄

介なのはアナフィラキシーショックといったアレルギー性の症状である。これは、過去に蜂に刺されたことで体内に抗体が生成し、次に蜂に刺されると抗体が過剰反応することで血圧低下や呼吸異常を発症させる症状である。発症した場合、一刻も早く医療機関へ搬送する必要がある。応急的な処置としてエピペンの使用がある。エピペンはアドレナリン注射のことで、ショック症状を一時的に緩和してくれる。ただし、入手するには医師の処方が必要で、基本的には他人が発症者に打つことはできないので注意したい。不安な方は病院に行つて抗体検査をお勧めする。過去に蜂に刺された経験のある方は病院で抗体検査をうけ、医師に相談して普段からエピペンを所持したほうがいいだろう。

続いて学習したのが毒蛇にかまれた場合の対応である。外来種は別として、国内で遭遇する毒蛇は三種類で、沖縄地方に生息するハ

ブ、本州に広く生息するヤマカカシ、マムシがあげられる。ハブについては地域が奄美、沖縄地方に限定されるので、出かけられる方



ポイズンリムーバを腕の患部にあてたところ



アドレナリン注射エピペン



大腿部へのエピペン投与

は勉強しておきたい。ヤマカカシは毒性は強いが牙が口の奥にあるため噛まれても牙が刺さらない場合が多いようである。最も被害報告が多い蛇は国内に広く生息する

マムシである。いずれの毒蛇にしても、噛まれた場合はポイズンリムーバで毒を吸出し、傷口を清潔にすること、身体全体に毒が回るのを防ぐため動き回らずできるだけ安静状態で医療機関に搬送し、血清を投与することが必要である。できれば噛まれた毒蛇を特定できるよう、特徴を記録しておくことも重要である。

最後に学習したのがクマに襲われて大けがをしたとの想定シミュレーションである。どのような現場でもそうだが、まず行わなければならないのが二次災害の予防である。近くにクマがいるのに現場に近づくことはできないので、追い払うなり何らかの処置が必要である。クマに遭遇した場合の対処はさておき、ここでは爪で引掻かれたり、かみつかれた場合への対応について勉強した。虫や蛇による障害とは異なり落石、転落等による外傷への対応と同様、大量出血を伴う事例である。

まずはF Aの基本である現場環境の確認、大量出血の有無、そして意識の確認から呼吸、脈の確認、全体観察と進んでいく。この対応はかなり高度なF Aスキルと言えるが、救助隊員であるなら繰り返し学習し、基本部分だけでも是非習得していただきたい。

どのシミュレーションも警察、消防への連絡に始まり搬送までをテーマに学習した。搬送中は傷病者の観察を怠らないことも大切である。個人委員会の講習では同じ三テーマについて講習を行った。講習では六名の隊員が評価にあたりとともに、デモを実施し日ごろの成果を発揮した。

山に限らず、事故は身近な日常でも起こりうる。しかし、とつきの時に果たして自ら手を差し出し手当できるだろうか。事故について考えると一生遭遇しない方々がほとんどかもしれない。しかし、たまたま遭遇した事故で、事故者の生命を左右するのが自分だとしてF Aに関するスキルを備えていることは決して無駄ではないはずである。生身の人間を教材としたF A研修、これからも継続したい。

日山協遭難対策委員会 積雪期レスキュー講習会

遭難対策委員会 角 田 守

二〇一七年一月二十七・二十九日、みなかみ町土合山の家に於いて日本山岳協会遭難対策委員会主催の講習会が行われました。

群馬県山岳連盟からは、日山協遭難対策委員会副委員長の町田（クラブ）、常任委員の角田、神垣（共に前橋山岳会）、アシスタントス

タッフで井田（群馬独峰会）が運営・講師で、剣持、清水（沼田山岳会）が受講生で参加されました。

講習は三クラスに分かれ、

クラス1

日本雪崩ネットワーク（JAN）のセーフティキャンプに準じた

「積雪安定性、雪崩地形、グルー

プマネジメント、ビーコン捜

索など」

クラス2

「雪質観察、雪崩予防、ビーコン基本操作、シェルター、低体温症など」のセルフレスキュー。

クラス3

「事故発生から搬送までのレスキュー技術、低体温症などのコンパニオンレスキュー」の編成で行われました。

積雪の少なすぎた昨年と比べ、今年は2m弱の積雪があり、ダミーの埋設も本番さながらでした。

日山協の主催講習会といっ

たこともあるのか、受講生の殆どは山岳関係者が占めており、次いで消防、警察などのプロフェッショナル、アウトドアガイドなどとなっておりますが、クラス1に関しては滑走系の方の割合が高くなっています。

受講生は遠く鹿児島、兵庫、奈良、大阪、京都からも参加いただき、全国から約四〇名が土合に集まりました。

みなさん新しい技術、知識の習得、確認と各々の目的、課題へ真摯に取り組んでおりました。

群馬岳連では、二〇一〇年谷川岳での雪崩遭難を期にビーコンが一気に普及しました。

七年を経た今、技術の進歩でアナログと云われるシングルアンテ



ツェルトでの遭難者梱包講習

ナから、複数を検索出来るデジタルと云われるトリプルアンテナが主流となつていきます。

そんな時代であっても登山者へのビーコン普及率はまだまだ低く、滑走系のそれとは比べ物になりません。講習生の中にも、「ビーコンを持っていないから貸し出しを云々」といった話がいまだにありま

す。

兎角「保守的」と云われる山屋さんですが、雪山へ登るのであれば、三種の神器「ビーコン（アバランチトランシーバー）、プローブ（ゾンデ棒）、スコップ」は、必ず所持しましょう。

それはご自身の身を守る、仲間にかけて貰えるチャンスを生む道具。そして仲間の命を救うことが出来る道具。

更に大事な事は、いざという時に正しく使えるよう定期的に練習することです。

講習会は、そのための手段として利用していただく機会としても有効です。慣れ親しんでいる地元谷川で毎年行われております講習会です。是非今後のご参加をご一考下さい。



初日の開講式

群馬岳連雪山レスキュー講習会

遭難対策委員会 井田 隆之

期日 平成29年2月25・26日

会場 谷川岳土合山の家

内容 雪崩メカニズム・アバラン

チトレーニング及び、シミュレーション

パッケージジグ・搬送方法

一連の流れ

低体温症について・悪天

時のスノーマウントとピット作成

今回は、積雪期における山岳事故に遭遇してしまつてからどう対処したら良いのか？低温により身体はどのような変調をおこすのか？主に雪崩による被害時の行動・対応を学ぶものとなつています。

近年は、スキー場以外でのバックカントリースキー・ボードを楽しむ方が増加しており、それに伴い事故件数も増加傾向です。また、山岳に係わる業務やレジャーでの

*山岳保険は必携登山装備です

ん。しかし、山岳地域における服装（下着）の話となると、常識が少し変わると思います。

特に雪山でのアクティビティにおけるレイヤリングではベースレイヤー（下着）は特に重要です。ベース・ミドル・アウ

ターの順にそれぞれの特性を生かした服装のシステムです。

ですが、せっかくのレ

イヤリングも無理な行動をすれ

ば、低体温症に陥る場合

もあります。要は、なぜ

低体温症になるかを知つ

ていなければなりません。

また、事故時には要救助者へのケアもとても大

切な項目です。雪崩被害

に遭い雪の中から救出さ

れたとしてもそこで終わ

りでは無いのです。むしろ、

事故に遭つてから社会復

帰まで視野に入れないけれ

ば、単なる物扱いの講習

になり兼ねないのかもしれ

ません。

ツェルトを活用した低体温への対応



簡易シェルター「スノーマウント」作成

雪崩被害を想定した救助の流れ

1 リーダーの決定

2 安全確保

3 搜索区域の判断

4 ビーコンや残留物によるサーチ

5 プロロービング

6 掘り出し

7 要救助者へのケア

簡単に流れだけ挙げましたが、たくさんありますね。

通常、レジャーとして楽しんで

自然の中へ出掛けると思います。

しかし、思つてもいなかった事態

に遭遇する可能性はあります。そ

んな時はベース（基礎）になる考

えがしっかりしていないと、小事

が一大事になってしまうかもしれません。

普段、外見からは見えない知識や使わない技術ですが、危急時にはその威力が発揮されます。

講習会の内容は、まずは基本的な低体温症や雪崩の座学、そして雪山に必須のビーコン・プローブ・スコップの扱い方の練習が中心ですが、実際に雪崩被害にあつた状況を想定して、現場の一連の状況を理解して頂くことが出来る講習内容となっています。山のレジャーの魅力を知っている皆さまには、少しネガティブな一面をあえて、体験できる講習会でもあります。現実を理解し、新たな気持ちで自然と向き合つて頂ければ、より一層安全にレジャーを楽しんで頂けると思います。

あとがき

雪山レスキュー講習会に参加して頂いた方々には、新しい考えの芽が出たと思っております。正しい知識や技術を更に発展させるのはこれからです。まだ小さな芽かもしれませんが、大事に育て、やがて大きな実を結ぶことを期待しています。



群馬岳連救助訓練

沼田山岳会 竹 吉 功

三月十二日妙義山ロックガーデンにて救助訓練に参加させていただきました。

救助の内容は、ワイヤーを使用した救助で、ロックガーデンの頂部に資材の搬入ルートを作成。救助支点を構築し、要救助者の検索を行い、メインワイヤーで隊員を降下させ、メインワイヤーの張り込みを準備。次に吊り降ろしのワイヤーをドラムに巻き付け、滑車と隊員を制動しながら下降させ、要救助者を収容し、メインワイ



ワイヤーによる吊り下げ

ワイヤーを使用した救助は、全国的に見てもワイヤーを使用した救助は、群馬岳連救助隊だけだということ、貴重な体験だと思っています。

昨今、ロープレスキュー・ヘリレスキューが主流になりワイヤーを使用したレスキューの必要性が減ってしまったのかと思います。

先日、長野県防災ヘリの墜落をみても9人という尊い命が絶たれヘリレスキューの難しさがうかがえ、いまの世の中、利便性・簡素化が叫ばれているが昔からの技術から学ぶものも多いと思います。

救助隊に入隊して三年目になりますが自分の体力・気力の続く限り継続していきたいと思ひ、これから入隊してくる後輩にも先輩たちが伝承してきたものを伝えていきたいと思っています。

最後の搬送訓練はワイヤー吊りおろし訓練で疲れてしまい、集中力低下でやっと下の道路まで降りることができ、ほっとしました。

要救助者の方には乗り心地が悪かったと思いますが、また、消防関係・他岳連の見学もあり緊張した訓練になりました。

隊長・副隊長・先輩方には大変お世話になりました。また次回の訓練に向けて精進してまいりたいと思います。



ワイヤーによる吊り下げ救助

救助隊に入隊して三年目になりますが自分の体力・気力の続く限り継続していきたいと思ひ、これから入隊してくる後輩にも先輩たちが伝承してきたものを伝えていきたいと思っています。

平成30年版カレンダー掲載作品募集のご案内

募集要項

概要

カレンダーサイズ A2版
カレンダー完成月 平成29年8月前後
印刷部数 1,200部
(一般頒布の他、関係機関等へ配布)

掲載写真点数 7枚
カレンダー頒布価格 1,000円

作品募集内容

作品対象 ・群馬県内の山々、県境の山々
・カレンダーですので二ヶ月間見て楽しめるような見応えのある親しみのもてる作品
作品内容 ・ポジフィルム、デジタル写真(1200万画素以上)のいずれも可

・大きく引き伸ばしますので画像の粗い作品は不可
・過去に写真展や写真集に発表したものでも可
応募方法 ・2Lサイズ(データ応募不可)
・撮影場所、撮影年月、撮影データを写真の裏面に記載

※記載のないものは採用しません

・一人5点以内

締切日 平成29年5月31日(水)

審査員 橋本勝理事他役員

※氏名、住所、連絡先を明記して、ご応募下さい。

〈応募先〉橋本博之 宛

〒370-0122 伊勢崎市境栄51-1

電話0270-74-0781

なお、ご応募頂いた作品は返却しません。また、作品を審査し、作品掲載が決まった方にはご連絡しますが、選考に漏れた方にはご連絡しません。あらかじめご了承下さい。掲載作品の権利は群馬県山岳連盟に帰属します。



株式会社エーアールアイ
東京都練馬区上石神井 3-18-1
TEL 03-5991-4638

弱電工事承ります。
電話工事、ネットワーク工事及びセットアップ(LAN 及び Wi-Fi 環境)、
TV アンテナ及びケーブル工事
パソコンで悩んでいませんか?
ソフトの使い方はわかりませんが、ハードの悩みは相談してください。
(難しい故障の場合は外注となります。)

ミヤマネットワーク

代表 佐藤 光 由
群馬県前橋市高花台 1-6-5
電話 027-269-1143 携帯 090-8842-2158



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2
TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026